

# 新年のご挨拶

美波町長 影 治 信 良



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は町政の推進に対し深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は人口減少・自然災害に続く第三の国難ともいわれる新型コロナウイルス感染症拡大により私たちを取り巻く環境は一変し、町内でのありとあらゆる行事・イベント・会議が中止、延期あるいはウェブ開催となったところです。このような中であって町内で感染者が出ていないことは、町民の皆さまの適切な行動のたまものであり心から感謝申し上げます。またこの国難を克服するために懸命の努力を重ねておられる全国の医師・看護師をはじめ多くの方々にも敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症が終息するまで私たち一人ひとりが「新しい生活様式」を身につけることが求められています。引き続き油断することなく感染リスクの回避に努めていただきますようよろしくお願い申し上げます。

さて、コロナ禍にあっても着実に歩み続けている協働のまちづくりについてご報告申し上げます。

産業振興のまちづくりでは、平成30年から由岐3漁協（志和岐・東由岐・西由岐）で協議を重ね、6月には市場を統合、10月19日には合併調印式を行い、本年1月1日に新漁協「由岐漁業協同組合（略称「JF由岐」）」が発足いたしました。由岐3漁協の組合長さんをはじめ関係者の皆さまのご努力に敬意を表しますとともに、現在水産業が漁獲高の減少、魚価の低迷や後継者不足など厳しい状況が続くなか、漁業者が将来にわたり安心して漁業に従事するための環境を確保するため、町と致しましても微力ながら支援をしてまいり所存であります。

安全安心のまちづくりでは、昨年1月に徳島県立病院、徳島大学病院、徳島赤十字病院、美波病院など13病院が「徳島医療コンソーシアム推進協定書」に調印しま

した。これは地域医療の充実、医療従事者の確保、医療の質の向上を図ることを目的とした包括連携協定であります。現在、美波病院、日和佐診療所、阿部診療所とも、多くの病院並びに医師の方々に支援をいただき地域医療が存続できているところでありますが、さらに今回の協定締結が町民の皆さまが安心して暮らせるまちづくりに資するものと期待をしているところです。

最後に持続可能なまちづくりでは、「企業版ふるさと納税（美波町地域再生計画）」の認定を11月に国からいただきました。これは本町の進めるまちづくりにご賛同いただいた企業様から寄附をいただくものでございまして、財政力の弱い美波町にとって独自の財源確保になるものであり、現行の個人を対象としたふるさと納税とあわせて推進してまいります。

本年は東日本大震災から10年という節目の年に当たります。私たちはこの10年間、東日本大震災の教訓を今後発生が予想されている南海トラフ巨大地震・津波への備えに活かすべく、自主防災会の皆さんと共に防災・減災対策をはじめ、事前防災さらには事前復興まちづくりに取り組んでまいりました。今後とも教訓を風化させることなく対策を進めてまいります。

新年を迎えてもなお新型コロナウイルス感染症収束の兆しも見えず、国内の政治・経済・社会環境も不透明感を増す、変化の激しい時代になってまいりました。近隣諸国を含む国際関係も予断を許さない状況にあります。本年も世界情勢や国・県の動向を注視しながら、「住んでよかったと実感できるまち」の実現に向けて、職員共々努力を重ね住民の皆さまの負託に応えて参りますので、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多い年となりますことを心からご祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。